



働きづらさを抱える人の新たな就労支援の取組

長久手市
NAGAKUTE CITY

令和8年3月5日(木)
愛知県長久手市 福祉部福祉課

01 愛知県長久手市について



リモテラス公益施設



介助犬総合訓練センター
シンシアの丘

提供:社会福祉法人日本介助犬協会

イオンモール
IKEA長久手
4つの大学

63,991人 (R8.1月時点)
平均年齢 **40.2歳** 全国1位 ※令和2年国勢調査
人口増加率 県内3位
面積 **21.55**キロ平方メートル



長久手古戦場記念館
(R8.4開館)



リモ



ジブリパーク

主として障がい福祉分野における相談支援事業の課題認識から事業立案し、令和6年度に障がい者自立支援協議会にプロジェクトチームを設置。

背景等と目指す将来像

背景

- ・ 就労のつまづき等による二次障害、長期ひきこもり、生活困窮者の把握
- ・ 働きづらい人の相談増加

課題

- ・ 行政等への相談のしづらさ
- ・ 働きづらさを抱える人への支援策不足

事業の方向性

- ・ 「働くこと」からの社会参加機会の創出
- ・ 行政と地域の事業者との協働
- ・ 自立運営を基本とした民間の就労支援プラットフォームの整備

将来像

- ・ 多様な人が多様な働き方ができる地域社会の実現
- ・ 地域の事業者の労働力の確保
- ・ 職住近接の地域住民のつながりの再構築と地元経済の持続的な循環

事業のポイントとなる視点

- 段階的な自立論ではなく、就労からのアプローチを行うこと
- 就労ありきではなく、「働くこと」が社会参加の第一歩となり得ること（従来の相談（福祉）や居場所ではなく、「まず働く」という入口をつくる）
- 福祉だけではなく、他分野や地域への面的な広がり重視し、地域に根ざした人と人とのつながりによる仕組みをつくること

事業の推進体制

- ・ 障がい福祉担当部署（事務局）
- ・ 障がい者基幹相談支援センター（共同事務局）
※委託により市社会福祉協議会が運営
- ・ 重層的体制支援整備事業・地域づくり担当部署
- ・ 生活困窮者自立支援事業担当部署
- ・ しごと・暮らし・つながりセンター
※委託により市社会福祉協議会が運営
- ・ 学識経験者（社会福祉学）

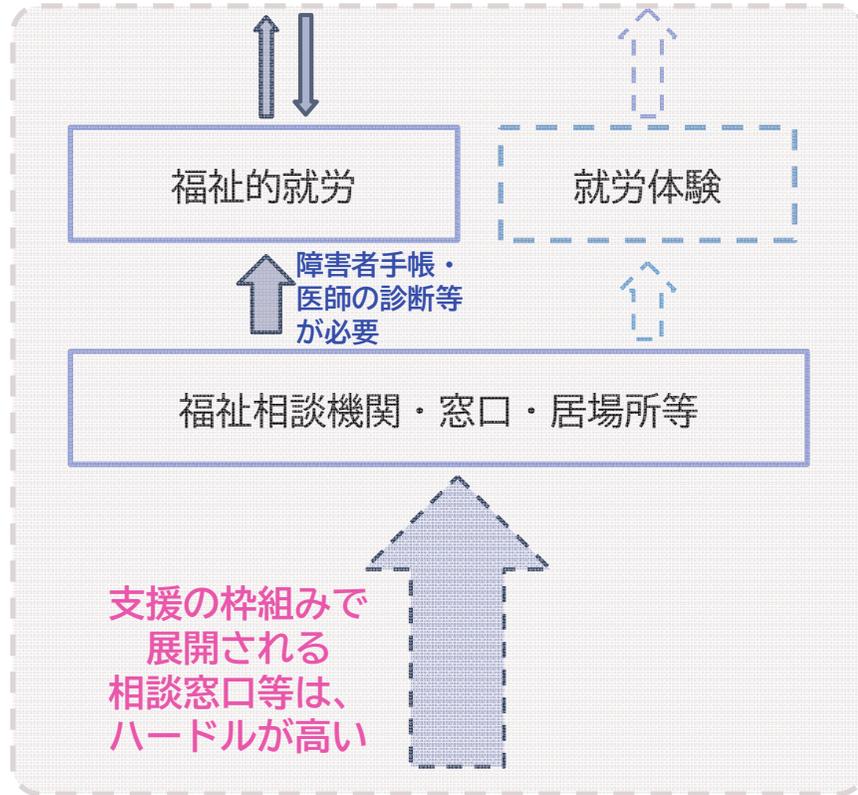
市における位置づけ、財源等

- ・ 本事業は、障害者総合支援法に基づく障がい者自立支援協議会の取組として市及び障がい者基幹相談支援センターが協働実施。
- ・ 市においてアクションプラン（実施計画）事業に位置づけ、2年間分の事業予算を確保。
- ・ 令和6年度は、地域生活支援事業費補助金（厚労省）、令和7年度は社会参加・活躍支援等孤独・孤立対策推進交付金を活用。

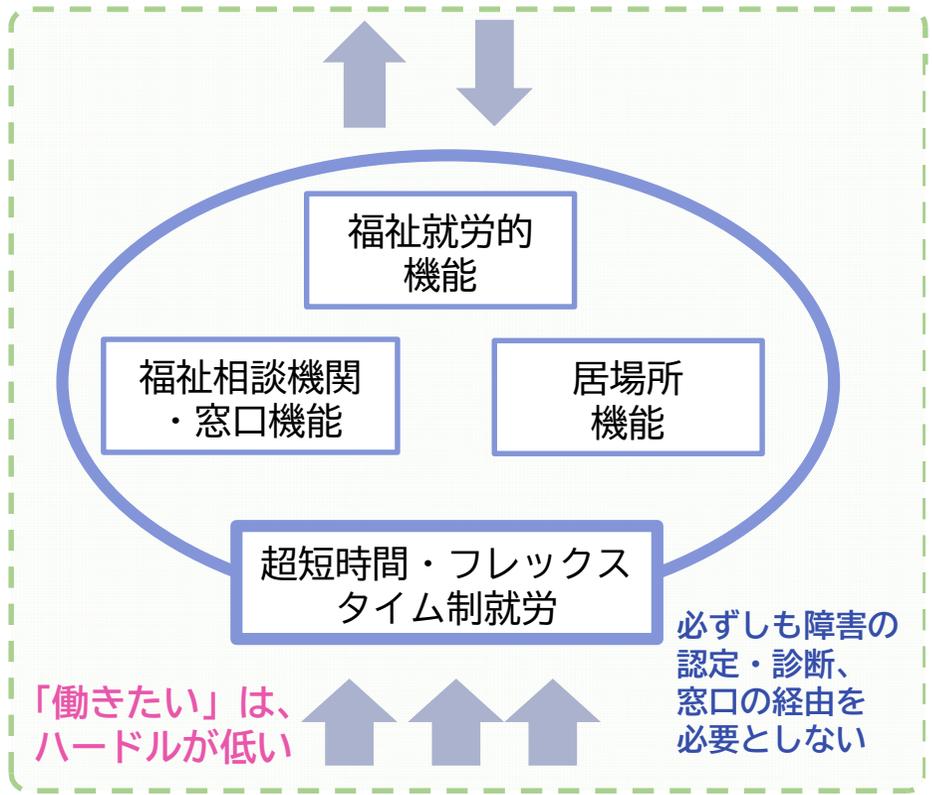
03 従来の就労支援の制度と本事業の相違点

一般就労

従来の就労支援の制度



本事業（新しい就労支援の形）



働きづらさを抱える人

(グレーゾーン、ひきこもり状態、空白がある、コミュニケーションが苦手など)

出典：金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科 橋川健祐准教授 作成資料

取組内容

R 6

- ・ 協力事業者の発掘
- ・ 先進事例の勉強会
- ・ 3事業者で3人が短時間就労（実証）
- ・ 事業者との意見交換会

R 7

- ・ 協力事業者の発掘（継続）
- ・ 「働く」について考える講演会
- ・ 6事業者で6人が短時間就労（実証）

R 8
（予定）

- ・ 事業者の発掘、短時間就労（試行運用）
- ・ 官民協働プラットフォームの整備
- ・ 寄付付き商品・サービス開発等を通じた事業者の応援
- ・ GCFによる資金調達への挑戦

事後評価から

本人（参加者）

- ・ 2か月の就労期間は、心理的負担が少なく参加しやすい。
- ・ （職場での）挨拶や相談、日常生活での人との会話など、対人関係が改善した。
- ・ 自身の背景を深く知られずに働き始められたことがよかった。（結果的には、自ら背景を語り始めた。）
- ・ 働くことへの意識の変化や進路について考えるきっかけとなった。（中には、今後の進路として、自ら福祉就労を選択した人もいた。）

事業者

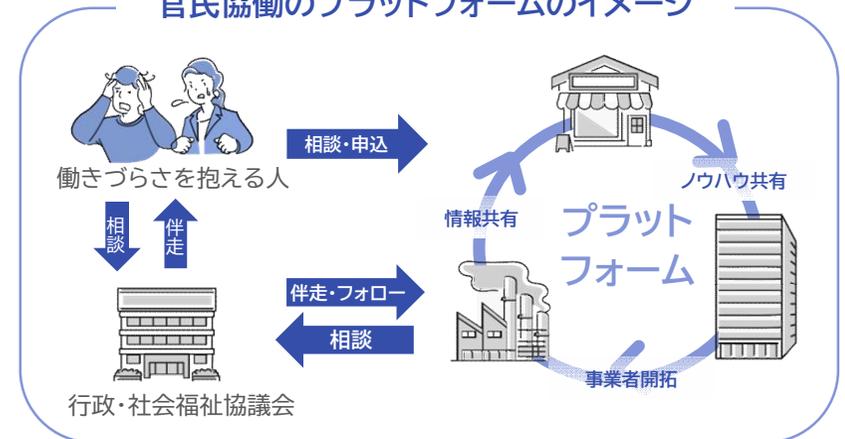
- ・ 回を重ねると、コミュニケーションが円滑になったり、自発的に取り組んだりする様子が見られた。
- ・ 2か月の就労期間は、（本人の）次のステップを考慮すると短いと感じた。
- ・ 労働力確保策にはならないが、職場の雰囲気に変化が見られた。
- ・ 一定の雇用リスクがあるため、無償など形態が様々あるとよい。
- ・ 本人の背景等が事前に知らされず、不安を感じた。

※事業者の業種は、飲食、農業、建設、清掃等

Point

- ✓ 素性や背景を知られることなく働ける本人の安心感
- ✓ 事業者の温かい関わりが本人の心情や行動に好影響
- ✓ 事業者への伴走・フォローの重要性
- ✓ 「就労ありき」としない社会参加の選択肢づくり
- ✓ 地元事業者との連携による職住近接の実現
- ✓ 社会貢献事業者としての評価向上、地域内での信頼獲得
- ✓ 寄附付き商品等の消費を通じた市民（当事者を含む）の参画

官民協働のプラットフォームのイメージ



(参考)事業リーフレット(令和7年4月発行)

「働く」を通して 一歩を 踏み出しやすい まちづくり。

長久手市民
約61,380人
(R7.4.1)

ひきこもり
状態の人
約820人

働きづらさを
抱える
長久手市民の数
125人に
1人

働きづらさを
抱える人
約490人

国の調査によると、心身の不調のほかに、就職活動でのつまづき、退職、職場になじめなかったことを、ひきこもり状態になったこと主な理由として挙げている人が少なくありません。^(※1)

就労の困難さが、ひきこもり、二次障がい^(※2)の発生、長期的には生活困窮・社会的孤立などにつながる恐れがあるにも関わらず、働きづらさを抱える人が、一歩踏み出す際の選択肢は十分ではありません。また、悩んでいても相談することは非常にハードルが高く、支援機関が把握することが困難です。

そこで、長久手市では、既存の相談窓口や支援制度とは異なる、多様な働きづらさを抱える人の就労を支える新たな仕組みが必要であると考えました。

※1 こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)による。
※2 もともと持っている発達障がいや身体障がいなどの一次障がいがある原因で、後天的に生じる精神的・身体的な問題のこと。

○全国で、15～64歳の年齢層の2%余りにあたる146万人が、ひきこもり状態であると推計
～こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)／令和5年3月内閣府

○ひきこもり状態にある人の約6割は「働きたい」と思っている ～ひきこもり白書2021

地域のみなさまへ

働きづらさを抱える人々が、「働く」ことを通して幸せを実感でき、また、より多くの人々が身近な場所で働き活躍できる持続可能な地域をともにつくりませんか。市及び福祉の専門家が、働きづらさを抱える人が能力を活かして働くための環境づくりと一緒に考え、フォローします。

本事業の趣旨に賛同し協働いただけるみなさまからのご連絡をお待ちしています。

発行:令和7年4月
発行者:長久手市障がい者自立支援協議会

就労支援モデル開発プロジェクトチーム事務局
長久手市役所福祉課・地域共生推進課
長久手市社会福祉協議会・長久手市障がい者基幹相談支援センター

問合せ

TEL 0561-56-0614 FAX 0561-63-2940
メール fukushi@nagakute.aichi.jp

協力:金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科 准教授 橋川 健祐
令和6年度モデル事業協力事業者:(合同)AYAKA ASSOCIATION まちの台所
「風と虹」、(一社)長久手アグサボ倶楽部、(株)トピラmemene balloon

「一歩」のきっかけを支えたみなさん

働きづらさを抱える人が、身近な場所で短時間、短期間から働いてみることを通して社会参加のきっかけをつくることを目的とした就労支援モデル開発プロジェクトを立ち上げ、令和6年度に3名が市

内の協力事業者で働き、一歩を踏み出しました。将来的には、事業者と行政と協働による就労支援プラットフォームをつくり、働きづらさを抱える人が多様に働ける社会に向けて取組を進めます。

「一歩」を踏み出したみなさん

(合同)AYAKA ASSOCIATION まちの台所「風と虹」／飲食業



関根さん・田中さん

彼が、デザート作りが得意であることを知り、お店でシュークリームを作るイベントを実施しました。普段は1人で作っているけど、多くの人と一緒に作る楽しさを体感してもらえました。

心がけたこと

本人のペースに合わせて、話をし、お互いの理解を深めていきました。話す中で、仕事の量や内容も工夫していきました。

人とよく話せるようになり次のチャレンジへ！

働いた Kさんより

新しいことにチャレンジするときには、毎回嫌じゃないか聞いてくれて、安心して働くことができ、人とよく話せるようになりました。バイトの面接が苦手だったので、事前に自分のことを知っている場所で働くことができたこともよかったです。バイトへのハードルも下がりました。



(一社)長久手アグサボ倶楽部／農業



成瀬さん

Tさんが作業途中にスマートフォンで田園風景の写真を撮っていたのが印象的でした。働く場所として新鮮だったのだと思うと思います。

心がけたこと

体調面で無理しないようにすること、作業がうまくできなくても気にすることがないように、少しずつ、ゆっくりと進めました。次に向けた一歩になればいいな、という気持ちで接しました。

自分に合った仕事に出会えました

働いた Tさんより

体を動かす仕事は自分に合っているようで、農業をもっとやってみたいという気持ちになり、自宅でも、プランターで野菜づくりに挑戦しています。一緒に働く人が「恐くないから大丈夫」と思えるようになってからは楽しめました。ステップアップに向け、この体験はとても効果的だと思います。



(株)トビラmemene balloon／バルーン制作



長崎さん

とても手先が器用な方でした。バルーン制作もどんどんコツをつかみ、プレゼント用のバルーンのデザインを一緒に考え、サンプルづくりから制作まで取り組んでいただきました。

心がけたこと

はじめは、とても緊張した様子でしたが、雑談をすることで徐々にほぐれていきました。とても真面目で、仕事もどんどん覚えてくきました。

もっと働けるかも、と自信につながりました

働いた Nさんより

はじめは1週間でも1時間でも体力的に厳しいと思いましたが、実際は短く感じ、もう少し長く働くことができるかもと感じました。まずは働いてみて、その先の働き方を考え、選択できることがよいと思います。市役所の方などのフォローもあり安心して働くことができました。



3名と事業者のみなさんは、今でも関わりが続いています！

令和6年度の取組をまとめた本リーフレットは、長久手市ホームページに掲載しています。

